

気軽に読める暮らしのネタ

イノス INOS Monthly マンスリー



News Letter
2018.9 月
Vol.196

“ハザードマップ”で

自宅周辺の災害リスクを確認しよう

○住んでいる場所で気をつける災害は？

9月1日は防災の日。西日本の豪雨災害も記憶に新しい今、これを機に、災害への備えを改めて確認したいものです。

国土交通省や自治体が発表している“ハザードマップ”には、お住まいの土地にどんな災害リスクがあるかが詳しく載っています。大雨や台風による浸水・土砂災害・地震・津波・火山の噴火など、「自分は無関係」と思わずに、いざというときの避難先を確認しておきましょう。

○ハザードマップはどこで見られるの？

「ハザードマップ（お住まいの市区町村名）」のキーワードでインターネット検索すれば、ハザードマップが見られます。

なお、ハザードマップには洪水・地震・土砂災害などいろいろな種類があり、地域によってはすべてが対応していない場合があります。その際は、国土交通省の「ハザードマップポータルサイト

(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)」で自分の住所を検索してください。ハザードマップは市区町村の広報紙などと一緒にポストに投函されていたり、役所などでもらえたりする場合があります。

○ハザードマップで何が確認できるの？

ハザードマップで確認しておきたいのは、災害

リスクと避難場所と避難ルートです。

例えば津波や洪水などの危険がある場所なら、自宅と周辺の“浸水深（どのくらい水に浸かるか）”をチェックして、安全なルートで避難できる“避難場所”と“避難所”を確認しておきましょう。

避難場所は「災害が起きたときに迅速に逃げる場所（緊急避難の場所）」を指し、避難所は「住居が災害の被害にあって住み続けるのが困難な場合に、しばらく住める施設」を指します。両方をチェックして、迅速に避難できるように準備しておくといいですね。

また、ペットのいるご家庭は、ペットも同伴可能な避難所を確認しておく必要があります。これは役所に直接問い合わせれば教えてもらえます。



年々異常気象の発生率が高まっていて、「例年
にない」「〇年に一度」などと言われる災害が
頻繁に起きています。“防災の日”をきっかけ
に、今一度災害への備えを見直しましょう。

全国に広がる家づくりネットワーク

INOS

イノスグループ

株式会社 創建

☎0564-62-7700